

一度クルーズに乗ってみませんか

木島 榮子 S39年文学部英文科卒

最近は色々なところで、気軽にクルーズに乗ってみたいのだけれどという声を聴くようになりました。大変うれしいことです。TVでも新聞でもクルーズに関するニュースが増えています。3000人～4000人も中国人乗客を乗せた中国発着の大型客船が沖縄や九州博多、長崎港に次々と寄港していますが、それが地方活性化の目玉として報道されていることも影響しているでしょう。

米国のプリンセス・クルーズ社が、日本には65歳以上の健康なシニア層が25%もいること、また、歴史や独自の文化・芸術、四季折々の美しい自然、美味しい食事があり、魅力的な観光資源がそろっていることから、日本はクルーズ市場としてのポテンシャルが高いと考え、是非日本発着クルーズを運航させようということになりました。そこで、2013年からプリンセス・クルーズ社が外国客船として初めて横浜港を母港にした日本を周遊するクルーズを運航開始しました。このニュースが流れるやいなや、日本の客船会社は「スワッ！黒船がやってくる」と警戒心をあらわにしました。確かに最初に投入された客船は77,000トン、乗客定員2000人、日本の客船の3倍近い大きな客船で、しかもクルーズ代金が日本船の約半額、ホテル代、3食食事代、船内でのエンターテインメント鑑賞代等も入れて、1泊一万円台からというのは大いに刺激的であったと思います。

日本ではクルーズは1泊5万～7万円もする豪華な旅行であり、毎晩お洒落をしなければいけない、船酔いも心配、そして、大海原で何日も過ごすのは退屈だろうと誤解され、特別な人達だけが楽しむものと思われてきました。日本郵船が客船「飛鳥」を就航させたのは1991年。当時の日本人のクルーズ人口は17万人。英国、ドイツも16万人から18万人とほぼ一緒でした。26年後の今年のクルーズ人口は日本が25万人。一方ドイツが200万人、英国が180万人と10倍以上に増加しています。

私は塾卒業後、海外旅行専門の旅行会社に入社し、ヨーロッパを中心に中近東、アフリカ等に何度も出かけ、クルーズ旅行も40年以上前から販売して来ました。クルーズの魅力は、荷物の持ち運びがなく移動も楽で、船内は病院もありセキュリティーもしっかりしていて安心であること、乗船したら退屈する暇もないほど色々なエンターテイメントやアクティビティが用意され、自由に自分の好きなように過ごすことができることです。また、青い海、青い空、輝く太陽の下で心身ともに解放されるのがクルーズの醍醐味といえます。

陸上旅行にはない新しい旅行素材としてクルーズ旅行を一人でも多くの方に楽しんでもらいたいと思い、25年前には欧米の主要客船会社の魅力的なクルーズ商品を紹介する会社を始めました。

プリンセス・クルーズ社が日本発着クルーズを行うにあたり、日本事務所を開設しましたが、私はその責任者を務めることになりました。外国客船でありながら、日本語や日本食に心配のない日本人に喜ばれるクルーズをということで、寄港地の選択から、日本人に好まれる食事メニューの作成、和食サービスの際に使う器の一つ一つを吟味し、日本語サービスの充実と日本船に劣らぬ心のこもったホスピタリティをどのように提供するのか 連日、連夜本社と掛け合って出来上がったのが横浜発着のクルーズでした。ご乗船くださった方々からは、クルーズがこんなに楽しいとは知らなかった、料金がこんなに安く気軽に参加できるとは知らなかったという声が上がリ、また、国内旅行をしているにも関わらず、外国人のお客様と一緒に外国旅行をしているような雰囲気がとてもいいと大好評で、次のクルーズを予約して下船されるお客様も数多くおられます。同時に、日本を周遊観光するにはクルーズが一番効率的で、料金的にも魅力があると欧米人のお客様の参加も年々増えています。

プリンセス・クルーズに続いて、昨年からはイタリアのコスタクルーズや香港のスタークルーズ等海外の客船会社が次々と日本市場に向けて大型客船を就航させています。更に2018年からはMSCクルーズ、セレブリティ・クルーズを大手旅行会社がチャーターしゴールデンウィークや、夏休みに国内周遊クルーズを運航します。ラグジュアリータイプの日本船から、プレミアムタイプ、カジュアルタイプの欧米客船と選択肢も大幅に増え、料金的にも決して高くないし、子供や孫も一緒に楽しめる家族旅行にクルーズは最適ということも少しずつ知られるようになってきました。クルーズを一度体験された方は又すぐ乗りたいとクルーズマニアが増えていく一方、若い人たちが乗りたいくても1週間の休暇が取れないから無理という声も多く聞きます。仕事をしている若い人たちが新しい旅行形態としてのクルーズが楽しめるように働き方改革、休暇制度改革が必要ではないかと思えます。

私の長い旅行業界の経験からクルーズ程、お客様の満足度が高く、苦情の少ない旅行はないのではと実感しています。お客様が喜んでくださる商品をご案内できることほど嬉しいことはありません。25年間でたった46%しか増えていない日本のクルーズ人口を2020年までには現在の2倍、50万人に出来たらというのが現在の私の夢です。

世界中で最も人気の高いクルーズエリアはカリブ海、地中海、エーゲ海です。でもまず身近な港から気軽に乗船できる日本発着クルーズに、一度は乗ってみませんか？